

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和元年7月12日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：児嶋長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○児嶋総務課長 報道官の児嶋でございます。

本日は2点御報告がございます。

まず、1点目です。採用活動において、個人情報としてのメールアドレスが漏えいした事案についての御報告でございます。

まず、事案の概要を御説明いたします。

本年、令和元年7月8日月曜日20時44分ごろ、新卒採用の一般職向け説明会にこれまで参加された250人の方に対しまして、原子力規制庁業務説明会の案内メールを人事課から送付いたしました。その際、誤って全てのメールアドレスを宛先、いわゆる「To欄」に入力して送信したため、送信された方に他の受信者のメールアドレスが表示される形になってしまい、個人情報としてのメールアドレスが漏えいいたしました。

翌日7月9日火曜日22時05分に、受信された方の保護者の方から原子力規制庁の連絡がございました。これを受けて、22時14分ごろに全ての受信者様宛てにお詫びと削除依頼のメールを、Bcc欄に記入して送付したものでございます。

今回漏えいした情報でございますが、先ほど申し上げたとおり、メールアドレス250件分でございます。メールアドレス以外にはございません。また、送信したメールの中に機密に該当する情報は含まれておりません。

これを受けまして、原子力規制委員会としましては、まず、庁内の全職員に対して、昨日、本件が発生した旨、また、今後、外部に送信する場合には十分に注意する旨の注意喚起のメールを送っております。

原子力規制委員会としましては、これまで説明会に御参加いただき、御迷惑をおかけした皆様に深くお詫びを申し上げますとともに、今回の事案に至ったことを深く反省し、再発防止に向けた対策をさらに徹底してまいりたいと考えております。

1点目の御報告事項は以上でございます。

続きまして、原子力規制委員会の広報日程に関しまして、補足の説明をさせていただきますと思います。お手元の広報日程の資料を御覧ください。

まず、1ページ目「2. 検討チームの会合、会見などについて」。

7月16日火曜日、(2) 第28回検査制度の見直しに関するワーキンググループについてです。こちらは議題が主に3つございます。

議題1は、いわゆる新検査制度に向けて制定される政令の内容を説明するものが主なものでございます。

議題2は、これは新検査制度に伴い、事業者が保安規定を変更する際の審査の方針について説明するものでございます。

議題3点目、これは新検査制度の中で行うこととなる手続がございます。1つは、安全重要度対応措置評価会合、いわゆる「SERP」と言っております。また、意見聴取会、これらの手続につきまして、まず模擬安全重要度・対応措置評価会合、これにつきましては、既に模擬的に実施しておりますので、その結果を報告し、また、今後、事業者と意見聴取会なるもののさらに模擬的な実施を行うことについて、その実施計画を説明するものでございます。

続きまして、1枚おめくりいただき、2ページ目、(3)、一番上でございます。第2回警報が発表されない可能性のある津波への対応の現状聴取に係る会合でございます。これは去る7月10日の委員会におきまして、関西電力の対応について意見交換をしたり、または現状を聴取する会合を持つこととされたことを踏まえて開催されるものでございます。

次に、その2つ下、(5) 第2回特定重大事故等対処施設の設置に伴う保安規定の審査方針に関する会合でございます。これは、議題1にございますとおり、特定重大事故等対処施設、いわゆる特重施設でございますが、7月4日に開催された第1回会合で事業者に伝えた特重施設の審査方針に関しまして、特重施設に係る保安規定の審査方針に関しまして、今回、事業者から意見を聴取するものでございます。

続きまして、その2つ下、7月18日木曜日、(7) 第6回核燃料施設等の廃止措置計画に係る審査会合についてでございます。これは、いわゆるJAEA・原子力科学研究所の軽水臨界実験装置の廃止措置計画に関しまして、前回6月の審査会合でのコメントに対する事業者の回答を受けるものでございます。

続きまして、(8) 第2回原子力機構バックエンド対策監視チームについてです。これも議題が3つございますが、大きく分けると2つになっております。

議題1は、いわゆる放射性廃棄物の処理を速やかに進めるための考え方について、事業者から説明を受けるものでございます。

議題2と議題3は、その放射性廃棄物の処理を速やかに進めるための具体的な施策について、説明を受けるものでございます。

続きまして、1枚おめくりいただき、3ページ、一番上です。7月19日金曜日、(9) 第8回量子科学技術研究開発機構部会についてでございます。これは量子科学技術研究開発機構の昨年度の業務実績について、同機構から説明を受けるものでございます。

続きまして「3. 委員の現地調査等について」です。

(1) リサイクル燃料貯蔵株式会社 リサイクル燃料備蓄センターの新規制基準適合性審査に関する現地調査についてです。これは7月18日木曜日9時から行われます。山中委員が、リサイクル燃料備蓄センターの敷地の形状や設備、試験等を確認されるものでございます。

続きまして、(2) 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 (JAEA) 東濃地科学センターの現地視察についてです。これは7月19日金曜日10時から行われます。田中委員が、東濃地科学センターにおいて地下坑道などの視察を行うものでございます。

広報日程に関する補足説明は以上となります。

<質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ワタナベさん。

○記者 時事通信のワタナベです。よろしくお願いします。

1個目の個人情報の漏えいの関係で伺いたいのですが、この最初のメールを送る作業というのは何人かでやっていたのですか、それとも1人でやっていて、特に確認するような体制にはなっていなかったのでしょうか。

○児嶋総務課長 お答えします。

今回の作業に関しましては、1人でやっておりました。人事課におきましては、実は平成26年12月にも、中途採用に関しまして今回と同じような「To」宛てに他の方のメールアドレスを入れるような、そういう事案を起こしております。

それを踏まえて、人事課では、そもそもメールを送信するシステムにつきまして、まず、規制委員会では、外部にメールを送るときにはまず送信ボタンを押します。すると、本当に送信していいのかどうかという確認メールが本人に送られてきます。その内容を確認した上で「承認」ボタンを押します。

今回は1人で作業をしておりまして、その者がBccに入れなければいけないということは認識していたのですが、その場合はもうToに入れているということを気がつかずに、そのまま承認してしまいました。

先ほど申し上げたとおり、平成26年にも同様の事案があつて、それ以来、人事課では、まず、そういう外部の方に多数の方にメールをお送りするときには、必ず誰か上司またはほかの者が確認するという運用を続けてまいりました。ところが、昨年から今年にかけて人事異動がございまして、今回メールを送信してしまった担当にはその旨が引き継がれておりませんでしたので、その者は確認を求めることなく送信してしまったと。そういう意味で二重のミスがあったものでございます。

○記者 確認ですが、この方、当該のメールを送った方も人事課の方ということでよろしいですか。

○児嶋総務課長 はい。人事課の係員になります。

○記者 分かりました。

特にメールアドレスを送信したことで、何か受け取った方から、こんな不都合なことが起きたとか、そのような被害的なものは何か報告は上がっていますでしょうか。

○児嶋総務課長 いえ。現時点までに被害的なものは報告を受けておりません。また、苦情も承ってはおりません。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほか、御質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノですが、1点確認したいのですけれども、9日の夜に不祥事が発覚したにも関わらず、10、11、12日と3日遅れで私たちに発表されたのは何ででしょうか。

○児嶋総務課長 お答えします。

まず、御批判だと考えておりますが、真摯に受けとめたいと思っております。

一応、経緯を御説明申し上げます。

9日の夜22時過ぎに確認いたしました。今回の業務説明会、先ほどの業務説明会に来てくださいというメールなのですけれども、10日に行われております。今回送信した者、それ以外の者も含めまして、まず業務説明会のほうに10日中かかり切りだったというのがございます。

そこから事実関係を確認して、整理をして、かつ、今回の事案は2点問題点がございます。1つは、いわゆるサイバー的な情報インシデント事案ということと、また、個人情報情報の漏えい事案、この2つに該当します。

事実関係を整理して、それらそれぞれの我々なりの規程もございますし、また、政府としてどういう対応をしなければいけないかというものを確認し、その対応をするので11日が終わりました。

それを踏まえまして広報の準備をいたしまして、本日1時に皆様に発表することになりました。

そういう意味では、我々としては最速を目指したつもりではありますが、確かに、御批判としてはそのとおりだと思っております。これからはより速く皆様にお伝えできるよう努めてまいりたいと考えております。

○記者 済みません。さっぱり理解できないのですけれども、では、例えばサイトでシビアアクシデントが起きたとき、シビアアクシデントが収束してから発表するのですか。それと同じようなことをおっしゃっているのではないですか。

○児嶋総務課長 今回の事案に関しましては、シビアアクシデントとはまた別だと考えていただきたく思います。ただ、今回の事案に関して、やはり個人情報であるとかサイバー事案であったということで、私自身の認識が甘かったのかもしれない。その意味に

おいては、私の、また、組織としての対応の遅さだったとは思っております。

○記者 よく分からないですけれども、簡単に言うと、きのう午前10時半でしたか、新長官の就任会見があったので、新長官の就任会見を外して、それで、1日おくれで発表したのではないのですか。

○児嶋総務課長 いえ、そうではございません。我々としては最速に処理したつもりではおりました。

○記者 今後こういう事案があったら、では、即日及び翌日には発表しないということですか。

○児嶋総務課長 今後、その事案によるかと思いますが、いずれにしましても、確かに極力、即日または翌日に発表できるよう努めてまいりたいと思います。

○記者 長官の、幹部の就任の日程を、では、外してくださいね、ちゃんとね。終わります。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—